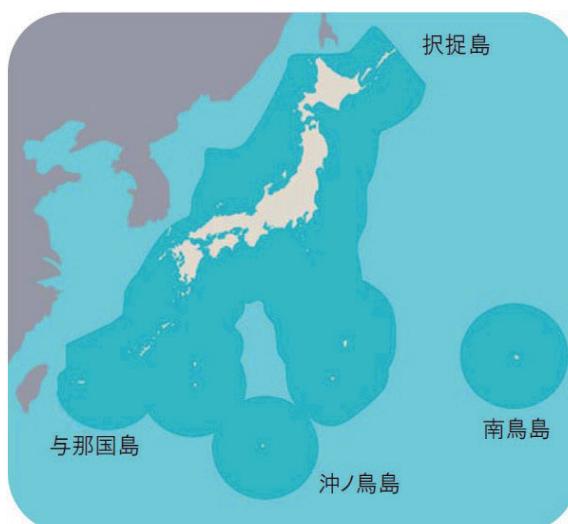


第Ⅱ部 漁業生産と資源の動向

1. 日本の水産業

広大な海洋面積

- 日本は島国なので国土の面積は小さい（61位）ですが、排他的経済水域（EEZ）の面積は世界第6位の広大な海洋面積を有しています。
- 国土面積37.8万km²に対し、EEZの面積は447万km²もあり、国土面積の約12倍の広さです。
- EEZは、広い大陸棚の上にあり、好漁場であるとともに、豊富な海底鉱物資源を有しています。
- 国連海洋法条約により、自国の漁業者が自由に漁業ができる範囲は、排他的経済水域の範囲内（自国の海岸から200海里＝約370kmまで）と決められています。



各国の排他的経游水域の面積※			
	国名	排他的経済水域面積*	国土面積順位
1位	米国	762万km ²	4位
2位	オーストラリア	701万km ²	6位
3位	インドネシア	541万km ²	15位
4位	ニュージーランド	483万km ²	74位
5位	カナダ	470万km ²	2位
6位	日本	447万km ²	61位

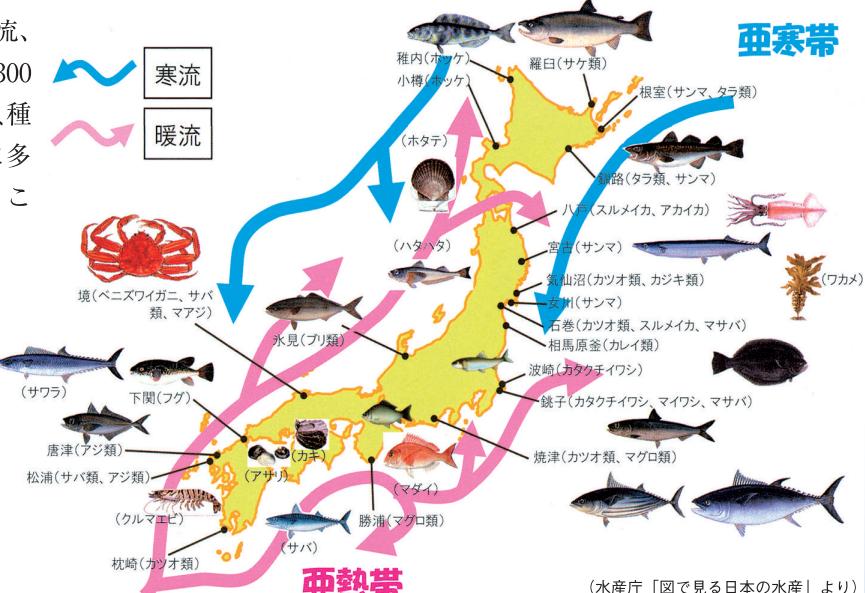
※:ここでは、領海及び排他的経済水域の面積をいう。
資料:領海及び排他的経済水域の面積:日本以外については、米国国務省「Limits in The Seas」、日本については海上保安庁HPより
国土面積順位:米国中央情報局「The World of Factbook」
(水産庁「図で見る日本の水産」より)

第Ⅱ部

水産物の種類が豊富

- 日本周辺海域では暖流、寒流がぶつかり、3,300に及ぶ多種多様な魚種が豊富で、季節毎に多くの旬の魚を食べることができます。

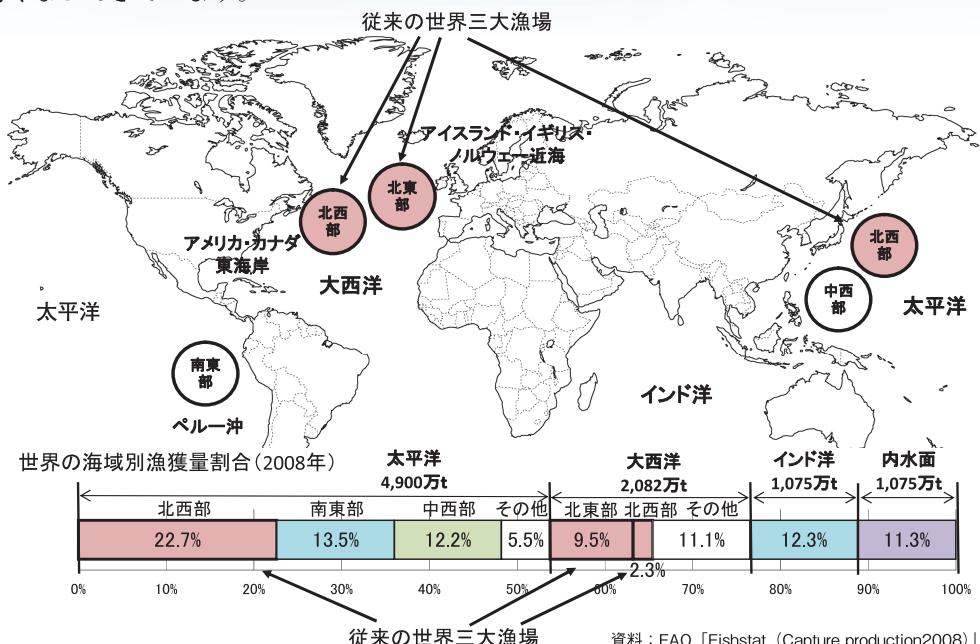
日本の魚種の多様性は、例えばニシン、タラ、サバ等5～6種類の魚が漁獲の8割を占めるノルウェーなどと大きく異なります。



(水産庁「図で見る日本の水産」より)

世界三大漁場

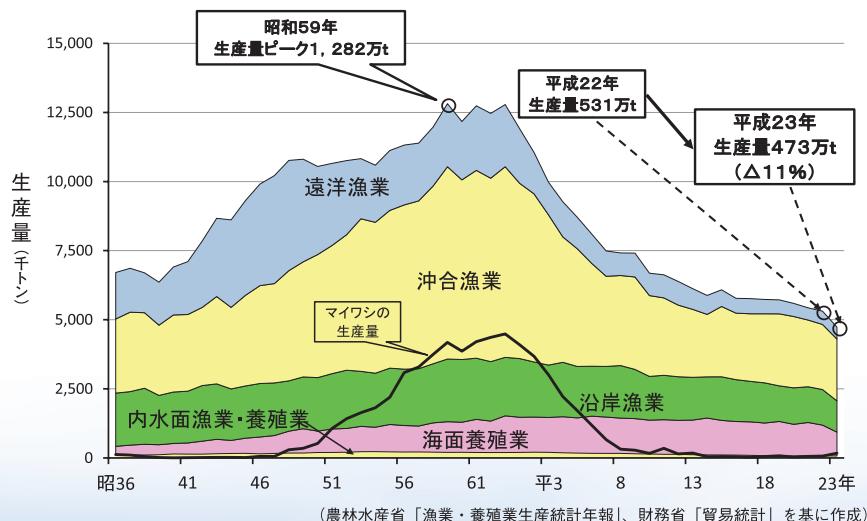
- かつては、①三陸沖（北西部太平洋）、②北海（ドッガーバンク、イギリス近海、アイスランド、ノルウェー近海を含む北東部大西洋）、③アメリカ・カナダ東海岸、ニューファンドランド島近海（北西部大西洋）が「世界三大漁場」と呼ばれていましたが、近年、北西部大西洋は資源状況が悪化し、現在ではペルー沖の南東部太平洋、フィリピン沖の中西部太平洋での生産量のウエイトが高くなっています。



漁業部門別生産量

- 平成22年の日本の漁業・養殖業生産量は531万トンとピーク時の約半分になっています。これは、200海里規制等により遠洋漁業が縮小してきたこと、かつて400万トン以上とれていたマイワシがとれなくなったこと等によるものです。
- 平成23年は震災の影響で前年比約11%減少の473万トンになっています。

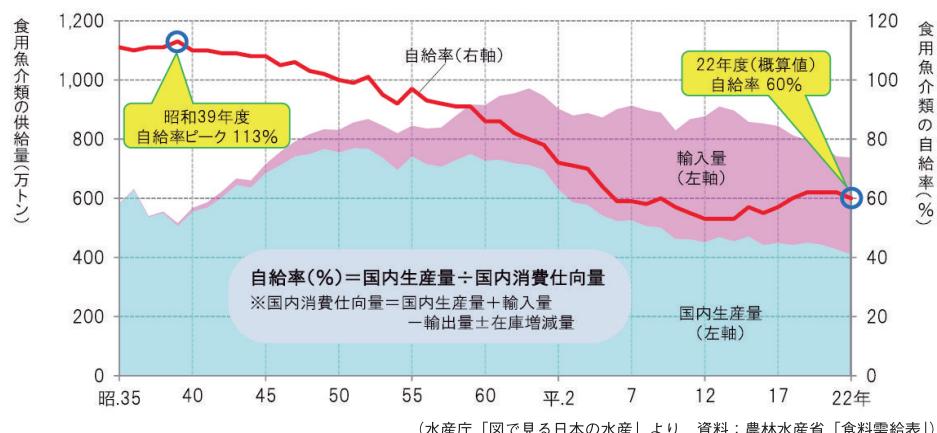
●漁業部門別生産量、食用魚介類の自給率の推移



自給率

- 昭和39年のピーク時には113%の自給率がありました。
- ①200海里規制など国際規制の強化や我が国周辺水域における資源状況の悪化により、国内生産が減少してきたこと。
- ②国内の需要が、アジ、サバ等の大衆魚から、エビ、マグロ、サケ等国内生産だけでは供給できない魚種へ変化したことによる輸入の増加により、現在は60%にまで減少してきています。

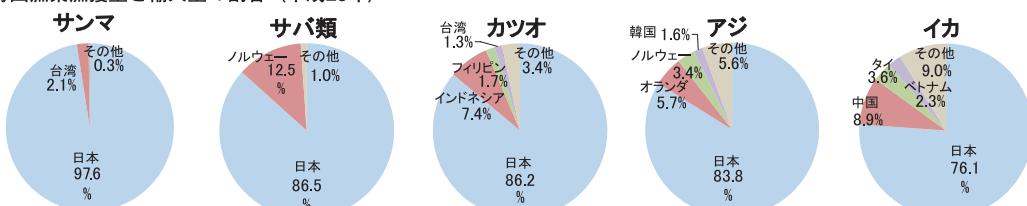
●漁業部門別生産量、食用魚介類の自給率の推移



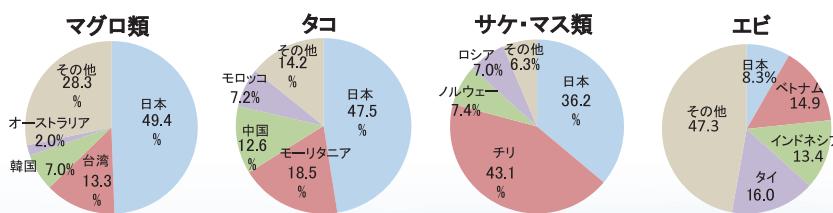
魚種別自給率

- 自給率が50%を超えている魚種は次の通りです。
- サンマ (97.6%)、サバ類 (86.5%)、カツオ (86.2%)、アジ (83.8%)、イカ (76.1%)
- サンマ、カツオなどは季節性のある魚種ですが、十分国内生産で供給することができます。旬の季節に美味しく味わってください。

●海面漁業漁獲量と輸入量の割合（平成23年）



- 自給率が50%未満の魚種は次の通りです。
- マグロ類 (49.4%)、タコ (47.5%)、サケ・マス類 (36.2%)、エビ (8.3%)
- 日本で消費されているエビは、天然のものはほとんどなく、外国で養殖された輸入ものが大半です。

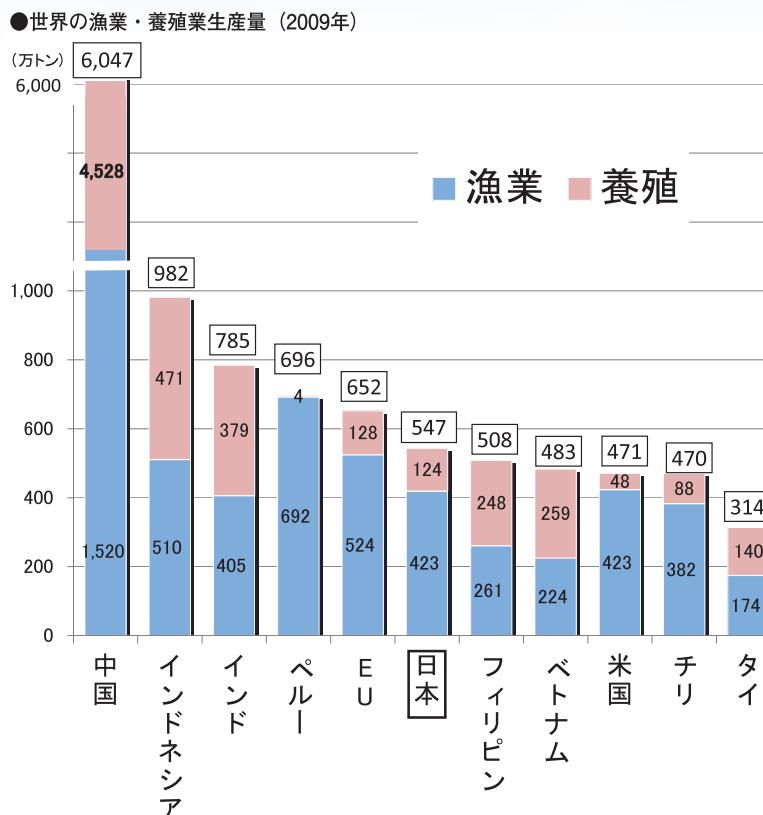


(農林水産省海面漁業生産統計調査、農林水産物輸出入統計より作成)

サケ・マス類では刺身用のサーモンなどが最近増えています。子供たちが好きな回転寿司のサーモンは北欧や南米から輸入されています。

国別生産量

- 世界の漁業・養殖業生産量を見ると中国の生産量は群を抜いていますが、中国は内水面漁業がおよそ半分を占めています。
- かつて日本は世界最大の漁業生産国でしたが、2009年にはピーク時の生産量の半分となり、EUに次いで世界第6位の生産国です。



（水産庁平成22年度水産白書「世界の漁業・養殖業生産量の推移」を基に作成）